



TITLE:

## <附論>傳統醫學の問題

AUTHOR(S):

藪内, 清

---

CITATION:

藪内, 清. <附論>傳統醫學の問題. 東洋史研究 1969, 28(2-3): 138-139

ISSUE DATE:

1969-12-31

URL:

<https://doi.org/10.14989/152799>

RIGHT:

榮があつたが、ヨーロッパ中世末期とはちがい、都市に對しても政治の支配は強く、庶民のエネルギーは十分に高まることのできなかった。

⑬ ーーム博士は、*The Science of Science*, 1964 (邦譯『科

## 〔附論〕傳統醫學の問題

日本では明治初年に傳統醫學——漢方醫學の問題は片づけられた。西洋醫學を修めたものでなければ醫師の免許状を受けることができなくなったからである。ところが中國では、漢方醫學はそのままに残っているというより、現在きわめて重要な役割を果たしており、政府もその重要性和有効性をさかんにとりあげている。最近の人民中國などには、毎號のように漢方醫學の問題をとりあげている。それは單に有効性だけの問題ではなく、政治路線につながるものとして考えられる。裏切者の代表となった劉少奇は、西洋醫學を尊重し漢方醫學を輕視したとして、はげしく非難されている。

シエーマ的にいえば、西洋醫學は都市のブルジョアに奉仕するもの、それに對し漢方醫學は農村勞働者に奉仕する

學の科學』、法政大學 一九六九年)の中に、『東と西における科學』なる論文を寄稿し、その中で *stagnation* (停滯) という言葉は全く中國に適用できないとし、これに代つて、中國の文明は *homeostatic* であつたとしている。

ものとしてとらえられている。だから農村勞働者を基盤とする現政權が、漢方醫學を重視するのは當然である。こうしたシエーマの形成には、かなりナショナリズムの背景がある。それと同時に、過去の歴史にも原因がある。中國に西洋醫學がはいつたのは天津條約以降のこと、長いあいだ宣教師醫師による病院や中國人醫師の養成が行われた。これらの病院は都市に集中し、治療を求めるのはブルジョア層であつた。醫師養成においては、少數のエリートをつくる方針がとられた。こうして中國における西洋醫學は、植民ブルジョアに奉仕する醫學とみられる経過をたどってきた。もちろん都市周辺の農村には、いくらか西洋醫學がはいった。しかし保守的な農村は、新しい治療法になじもうとしなかった。

中華民國の時代は、西洋醫學が尊重された時代である。しかし國內の混亂によつて醫學教育は十分に行われず、日

華事變前において西洋醫學をおさめた中國人醫師は僅か一萬人程度であったという。農村に大部分の人口を持つ中國の醫療を擔當したものは、いうまでもなく漢方醫者であった。Croizier: *Traditional Medicine in China*, 1968 (Harvard)によると、漢方醫者の數を五十萬としている。彼らの多くは大した學力もなく、西洋醫學をおさめた醫者たちからは輕蔑されながらも、治療をつづけてきた。しかし彼らの治療を禁止しては、醫療行政は全く成立しないのであった。現政府は、その成立まで農村を基盤としてきびしい闘争をつづけ、物資の缺乏になやまされてきた。もちろん醫藥の入手に苦勞したことはないまでもない。彼らは漢方醫學を研究し、漢方藥や針灸などの治療によって、戰爭を勝ちぬいた。新中國の成立以來、西洋醫學を修得した醫師は飛躍的に増大しているらしい。傳統醫者—中醫と匹敵する數字になっているらしい。それでも醫師の絶對數は不足する。しかし一方で、漢方醫學の研究と奨勵は次第に重要性を増してきたのである。大量の古典醫書の刊行、北京における中醫研究所の設立、さらに中醫と西醫との治療協力などが、政府の方針で進められた。ことに一九五八年

の大躍進時代には、漢方醫者のほかに、民間治療を行う素人醫者さえも動員された。それに古典醫書にみえた處方のほかに、民間で行われる處方などが搜羅された。ところでこの民間療法の重視は、昨今の中國でまた復活している。文化大革命以後には、大躍進時代の考え方が多分に復活しているようである。

西洋醫學が傳統醫學か、この比較は單にその有効性や科學性だけの問題でなく、現在の政治路線とも深いつながりがある。文化というものが、文學や藝術などにかかりあうだけでなく、社會における人間の考え方を意味するならば、科學技術の問題はすべて文化の問題である。ことに人間と關係の深い醫療は、そうである。文化大革命の中で傳統醫學が大きくとりあげられるのは、當然の成行でもある。

(藪内 清)